

第12回 鹿児島県原子力安全

令和2年10月27日に第12回の専門委員会が開催されました。

・避難計画等防災専門委員会について

九州電力などからの報告を受けて、委員からさまざまな意見や助言がありました。

川内原子力発電所の安全性の確認について

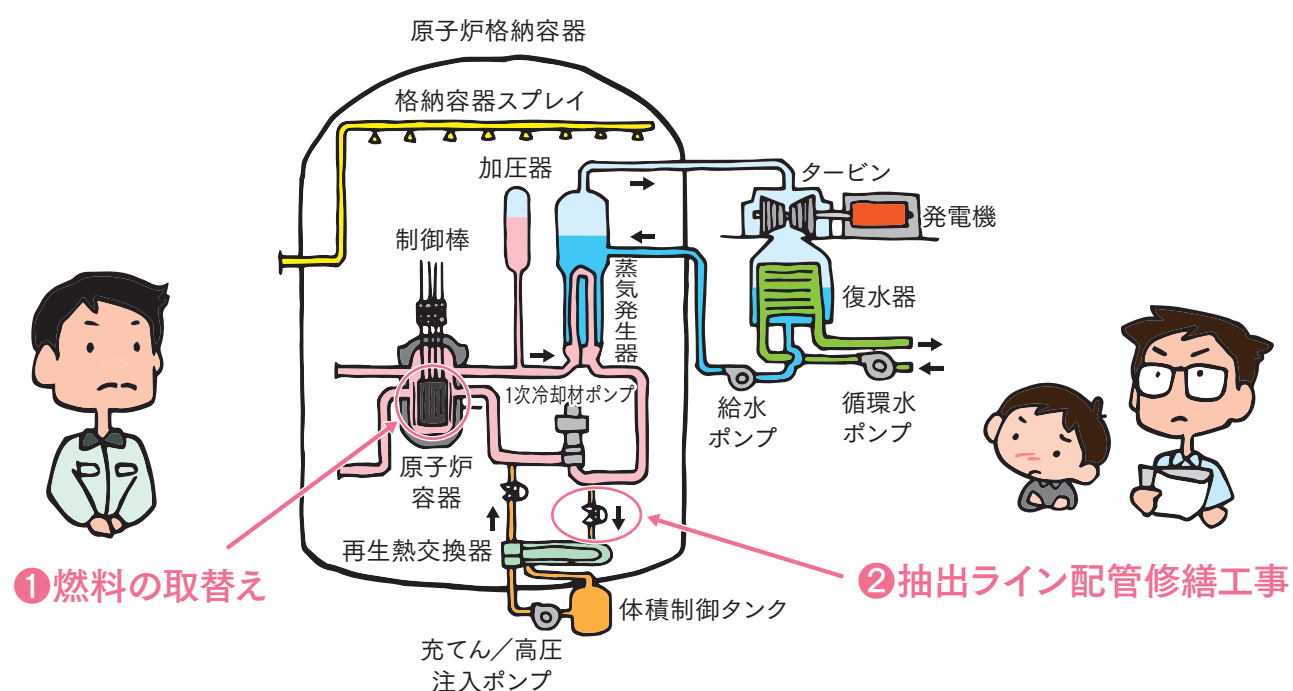
特定重大事故等対処施設(特重施設)の対応状況について(九州電力)

- 特重施設について、当初1号機は令和2年12月まで、2号機は令和3年1月まで発電を停止して定期検査を行い、当該検査期間中に完成させることとしていましたが、工事の工程短縮などにより、1・2号機ともに、完成が1か月早まる見通しとの説明がありました。

補足 特重施設は、1号機が11月11日に、2号機が12月16日に運用を開始しました。

2号機の第23回定期検査結果について(九州電力、原子力規制庁)

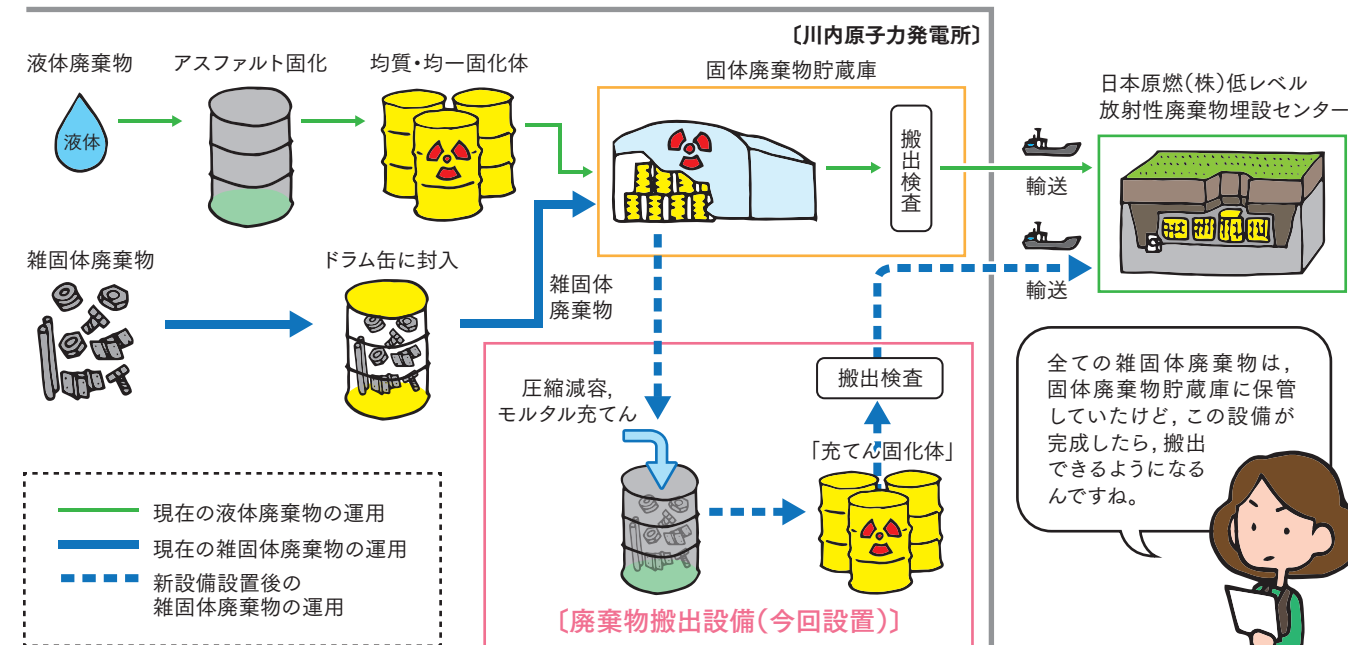
- 第23回定期検査では、九州電力による109項目の検査と国による61項目の検査が行われ、いずれも異常は認められなかったとの説明がありました。
- 次の主な工事について説明がありました。
 - ① **燃料の取替え**・・・燃料集合体157体のうち16体を新燃料に取り替えた。
 - ② **抽出ライン配管修繕工事**・・・予防保全の観点から、一部に使用していた冷間曲げ管を、より割れにくい熱間曲げ管に取り替えた。



- 主な質疑応答**
- Q 抽出ラインを熱間曲げ管に替えたということだが、その戻りラインの方は、替えなくても大丈夫なのか。
- A 抽出ライン配管の一部に冷間曲げ管を使用していたが、今回の取り替えをもって、すべて熱間曲げ管へ取り替えを終えている。

廃棄物搬出設備の設置について(九州電力)

- 発電所で発生する低レベル放射性廃棄物のうち、工事に伴って発生する雑固体廃棄物(配管等の金属類)などを固化し、青森県六ヶ所村の日本原燃(株)低レベル放射性廃棄物埋設センターに搬出するための、「廃棄物搬出設備」の設置計画について説明がありました。



- 主な質疑応答**
- Q 今回の廃棄物搬出設備で、現在、固体廃棄物貯蔵庫にある廃棄物が具体的にどのくらい減少するのか。
- A 年間の発生量が約1,400本に対し、廃棄物の圧縮・減容及び搬出により年間約1,700本を処理する計画であり、毎年約300本ずつ減少する見込みである。

これまでの委員からの意見への回答(九州電力)

- これまでの意見** 桜島大正噴火の火山灰シミュレーションについて、入力条件をよく検討して数値解析を行うこと。
- 解析に用いたシミュレーションの入力条件等の妥当性を確認するとともに、新たな解析プログラムによるシミュレーションを実施し、降灰評価の保守性を確認したとの説明がありました。

- 主な質疑応答**
- Q シミュレーションにおける、計算結果の保守性をどのように担保しているのか。
- A 時々刻々と変化する風の中から発電所方向に向かう風を気象条件として選定し、火山灰の噴出量はより厳しくなる計算条件として設定し、それらを重ね合わせることで、計算結果の保守性を担保している。

3ページへ続きます